

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170200802		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム からまつ		
所在地	札幌市北区篠路3条7丁目9-17		
自己評価作成日	平成27年11月2日	評価結果市町村受理日	平成27年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は利用者の病状や一人一人の性格など、把握できておりその方にとってより良い生活が出来るよう支援しています。職員と利用者が冗談を言って笑ったりし、いつでも笑いがあります。とてもアットホームな雰囲気です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kan=true&JigrosyoCd=0170200802-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成27年11月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR篠路駅から5分程の、商店街の中にある2階建て1ユニットのグループホームである。商店を改築した建物で、1、2階とも共用空間を中心に居室が配置されており、特に2階の共用空間は広く、畳の小上がりがあり寛ぎやすい場所となっている。トイレが各階に2カ所ずつあり、いずれも広めに造られている。趣のある絵画を各所に配置し、落ち着いた雰囲気を作っている。家族の来訪は多くないが、運営推進会議を案内する際に新たに意見を聞くようにし、毎月「からまつ通信」でも利用者の様子を個別に伝えている。ケアマネジメントの面では、介護計画を見直しする際に項目ごとの評価表で職員意見を集め、次の計画に反映している。日々の記録の中に重視する項目のチェック表を挟み、目標を意識して記録するようにしている。フェイスシートやアセスメントシートについても、情報を追記したり、一部のシートを定期的に更新している。医療支援の面では、内科および精神科の協力医による月2回の往診を受け、その他専門科目の受診についても事業所で通院を支援している。職員が利用者の人格を尊重してやさしく接しており、利用者が明るくゆったりと過ごしている。職員の退職が少なく、安定していることも利用者や家族の安心につながっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられる (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一階フロアに掲示しており、職員全員が理解し共有して実践につなげている。	事業所独自の理念の中で「地域や自然と触れ合い、関わりをもって、ゆっくりのんびり自分らしくすごしたい」という内容を掲げている。理念を共用部分に掲示し、朝の申し送り時に理念に沿ったケアについて話している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入参加し、町内の行事に積極的に参加し近隣住民との挨拶や会話など交流をしている。	町内会に加入しており、商工会の夏祭りやコミュニティーセンターでの文化祭に利用者と一緒に参加している。居間が玄関前の道路に面しており、近所の方が気軽に立ち寄っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や町内会の交流会に参加し、お話しする機会がある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ひと月ごとの活動報告、行事予定、利用者様の状況等報告し包括や参加者から頂く情報などで、いいものは取り入れてみたりと活かしています	運営推進会議を2か月毎に開催し、地域包括支援センター職員、民生委員、複数の家族などが参加して熱中症や高齢者への詐欺などをテーマに話し合っている。案内や議事録を家族に送付し、案内にアンケートを載せ、事前に意見を得ている。	町内会役員の参加が得られていないので、参加を得られるよう継続的な働きかけを期待したい。また、外部評価や評価後の取り組みについても議題で取り上げることが期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議時に包括支援センター職員から情報をいただいたり疑問点を相談したりしている。また今年には行事にも参加して頂き協力して頂いている	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり、情報提供を得ている。疑問点があれば区や市に電話で相談している。区や市の管理者会議にも参加し、情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間帯のみであり、外部研修、内部研修を行い身体拘束にならぬよう常に話し合いを行い務めている	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルを整備しているが、勉強会等は行っていない。日中は玄関を施錠せず、出入があれば、チャイムやセンサーで分かるようにしている。	身体拘束の禁止の対象となる具体的な行為11項目について、職員の理解が深まるよう、定期的な勉強会や内部研修の開催を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	内部研修、外部研修で意識づけと注意を払い気になる言動、行動、などがあれば報告しあい、改善に努めている。		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者で後見人を付けている方が居り、今後このように活用して行くことが増える事を踏まえ、内部研修にて権利擁護について新しい職員にも学ぶ機会を増やしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書などじっくり読み上げ疑問や質問にはわかりやすく返答し説明している		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様の来訪がほとんどない状況のため、毎月の通信での担当者からのコメントや写真をいれたり、運営推進会議の意見や要望のアンケートをいれてみたり取り組んでいる	家族の来訪は多くないが、来訪時や電話で介護計画を説明する際に意見をj得ている。運営推進会議を案内する際にも意見の提供を受けている。毎月「からまつ通信」で利用者の様子を知らせている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの意見や提案は、早急に相談を行い早目に反映できるようにしている。	毎朝の申し送り時や随時のカンファレンスの際に職員同士活発に意見交換を行っている。管理者と職員の面談は随時行っている。掲示物や書類整理、行事企画などを職員が分担して行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、実績等は管理者から代表に伝えており、代表は職員の状況を把握している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ひとりひとり経験、力量が違うため経験年数に合った研修を受けてもらい、目標を持って何が必要かを考え実践に生かしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市、北区の連絡会に参加し、月1回の他のGH管理者と意見交換に参加し、事故報告、事例検討、サービス向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居するまでに何度かお会いし、ご本人様の要望など聞く機会を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族がどんなふうに住んでほしいのか、また困っている事や不安など傾聴する時間を設ける		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人のできる事、できない事を見極めてご家族様の要望を傾聴し今後のサービスに反映している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が出来る事を見極めて一緒に行う事で、新たな会話が生まれ良い関係を築けている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様は、ご家族が来られる事を楽しみにされており、その気持ちを理解してもらい家族では埋まらないさびしさもあることをお伝えしている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族や友人が来苑された時にはゆっくりとお話できる環境を提供している。希望があればお手紙を送ったり電話を掛けたりしている。	2名の利用者に昔近所に住んでいた方や職場の同僚が来訪している。手紙の投函や電話の支援も行っている。近くの駅に列車や駅の様子を見に行ったり、神社にお参りに行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1階2階にソファを配置し、1階には全員が座れるためそこで、テレビを観たり利用者同士が談話できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんどの方が入院退去の為、時々面会に行ったりご家族の相談に乗ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心身ともにリラックスしている入浴時に要望や不満など本心の聞き取りを行っている。	半分以上の方は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方も表情や仕草で把握している。フェイスシートやアセスメントシートを整備し、情報を追記したり、一部のシートを定期的に更新している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの情報や申し送り、関わった職員からの会話の中で出てきた生活歴を全員で共有し把握している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとり年齢や介護度なども考慮し、できる範囲で過ごしやすい生活リズムで過ごしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3～6か月ごとにモニタリングを行い、ご本人とご家族からの意向を確認し、職員の意見を取り入れ出来る支援と介護計画を作成する。	利用者の状況に応じて介護計画を1～6か月で見直ししている。項目ごとの評価表で職員意見を集め、次の計画に反映している。日々の記録の中に重視する項目のチェック表を挟み、目標を意識して記録するようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々に記録があり、日常のの様子や普段とは違う言動、行動などがあれば共有のノートを使い職員全員が把握できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々に応じてサービス提供できるように、いつも情報交換して取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区役所や区民センター、包括からの情報で地域資源の把握し出来る限り活用できるよう支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご本人・ご家族に決めて頂いている。協力医療機関は月に2度訪問診療と訪問看護を受け、体調の変化があれば適切な医療を受けられるよう支援している	内科および精神科の協力医による月2回の往診を受けており、その他専門科目の受診についても事業所で通院を支援している。利用者ごとの「病院受診表」を作成し、情報を共有している。	

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度の訪問看護を受け、体調の変化など報告し、アドバイスなど貰い変化は医師へ報告してもらい適切な指示や受診を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	日頃から医師・看護師との情報交換がある為入院の際もスムーズに対応してもらえ早期退院に向けての指示を受けたりと良い関係が築けている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期については入居時説明し、医療機関とご家族へ相談を行い方向を決めていく	利用開始時に「入居者様が重度化した場合の対応に係る指針」を説明し、同意書を取り交わしている。医療行為が必要な場合の事業所での看取りは難しい旨を説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修にて急変時の対応などには備えている。救命救急講習会などにも参加し訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。災害時の備蓄品も準備出来ています。また地域消防団や近隣住民との交流を持ち協力をお願いしている	年に2回の昼夜を想定した避難訓練を実施しており、1回は消防の協力を得ている。一方、地域の方の参加は得られていない。職員の救急救命訓練を一昨年実施し、水や食料などの備蓄品も用意している。	住民や町内会、近隣や関連のグループホームなど幅広く声かけし、地域の協力も得ながらの避難訓練の実施を期待したい。また、地震等の災害時の具体的な対応について、マニュアルを作成し定期的に話し合いを持つことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人に合った生活歴、性格に合わせた会話、言葉遣いなどに心掛け、個人記録は事務所内にて保管しています。	職員は入社時やグループ会社内の研修で言葉使い等の接遇マナーを習得し、利用者の誇りを損ねない話しかけをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は強制的や一方的ではなくご本人が選べるようにお本人を尊重しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制的ではなく希望に沿うよう支援はしているが、人手不足で希望に沿えない部分も現在はあります		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温に合った服装を着て頂くよう支援している		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生会などではご本人の希望を取り入れているため大変喜ばれています。配膳などは積極的に行っていただいています。	彩りの良い栄養バランスの取れた食事を利用者と職員と一緒に食べており、食材会社でカロリー計算されたものが提供されている。ホームの畑で取れたジャガイモも食材となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面では管理栄養士が献立作成しているためバランスの良い食事を提供している。水分量も記録しているため職員全員が把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは声掛けにておこない習慣化している。就寝時に義歯ははずしてもらい殺菌消毒行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を決めて声掛け誘導にて、トイレでの排泄を行っている、排泄表や個人記録に書き込み排泄のパターンを把握している。	半数近くが自立しているが、排泄管理表でパターンを確認し、人格に配慮しながら失敗のないよう適切に誘導をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じたストレッチや排便を促す牛乳や冷たいお水など、またはヨーグルトなどで自然排便できるよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日1時半～入浴時間を設け週2回入れるようつとめ、前回の順番なども記録し偏らないようにしている	毎日の午後2～3名ずつ入浴し、各利用者が週2～3回の入浴をしている。拒否がある場合は翌日に変更したり、歌ったり会話をしながら楽しく入浴が出来る支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで傾眠される方には、声掛けしお部屋で休んで頂いたりゆっくり横になり休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の情報があり、薬の変更、増減などは、申し送りやノートにて全員が把握できるようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事を見極めてお手伝いしてくれたことに感謝の言葉を伝えることで、気分よく過ごせたり、レクレーションでは、張り合う事で気分を上げ楽しんでもらう		

グループホーム からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い暖かい日にはお散歩に出かけたり、ドライブに行ったりと気分転換をしている。	天気の良い暖かい日中は近隣の散歩で篠路駅まで歩いたり、ホームの畑に出ている。花見に篠路神社へ行き、ドライブで百合が原方面や屯田地区へ行くほか、系列ホームへ夏祭りやお寿司を食べに行っている。年間行事についても計画通り実施できるよう取り組む意向である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望により持っている。お買い物に行くときにはお誘いしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をしたり、お手紙を書いたりして支援している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を飾ったり、各フロアの掲示板上には季節ごとのディスプレイを行っている	玄関には季節の花を置き、壁に絵画が多く飾られ、落ち着いたホールで好みのソファに座りゆったりと過ごしている。安全に昇降できるよう階段には両サイドに手すりがついてあり、2階の広いリビングには畳の小上がりがあり自由に寛ぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアにソファを置いているのでどちらもゆっくり座られ談話を楽しむことができる		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好きな物を置いたり、写真や人形など好みのものを飾って、居心地がよく過ごせるようにしている	備え付けのクローゼットがあり、壁に自分の作品を飾り、姿見やぬいぐるみ等で安心して過ごせる部屋となっている。温度調節付きの暖房器具で職員は利用者が寒くないよう適温管理をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事、できない事の見極めと見守ることを重要視し安全に生活できるようつとめている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム からまつ

作成日：平成 27年 11月 24日

市町村受理日：平成 27年 12月 2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	町内会役員の参加が得られていないので、参加を得られるよう継続的な働きかけを期待したい。また外部評価や評価後の取り組みについて議題で取り上げる事を期待したい。	今月に運営推進会議があるためすぐに実行する。	早速外部評価を閲覧してもらい、改善点など指摘のあった項目など説明し、議題にした。	1週間
2	6	身体拘束の禁止の対象となる具体的行為11項目について、職員の理解が深まるよう、定期的な勉強会や内部研修の開催を期待したい。	しっかりと内部研修や勉強会を行い、しっかりと11項目について覚えてもらうようにする。	職員全員が参加できるよう日程を調整し、身体拘束や虐待などについて学んでもらう。	3か月
3	35	住民や町内会、近隣や関連のグループホームなど幅広く声掛けし、地域の協力も得ながらの避難訓練の実施を期待したい。また地震等の災害時の具体的な対応について、マニュアルを作成し定期的に話し合いを持つ事を期待したい。	近隣住民や近隣、関連グループホームなどに声を掛け避難訓練の協力をお願いしたい。	関連グループホームや近隣グループホームに協力をお願いし、年2回の避難訓練を実施したい。また災害マニュアルを作成し地震時の避難誘導など身につけていく。	6か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。